

Vol. 155

TIFA会報

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

立川国際友好協会発行

発行責任者 木下 究
編集責任者 的場正道

ホームページ

<https://tifa-class.net/>

2024年 年頭の挨拶 地域生活をエンジョイできる一年に

立川国際友好協会 会長 木下 究



新年明けましておめでとうございます。

この一年がみなさまにとって幸多き年であるよう心から願っております。

さて、2020年から続いたコロナ禍もようやく終息を迎えています。昨年5月、新型コロナウイルス感

染症が感染法上の5類に位置づけられてから、私たちの日本語教室での活動も、コロナ禍以前の多彩さを徐々に回復しています。過去3年間は、三密を避け、感染予防を第一として、日本語学習を継続することに集中してきました。

しかし、昨年5月以降は、学習だけでなく、交流の機会も増やしてきました。7月末にはお好み焼きパーティーを開催し、日本人ボランティアと外国人受講生が一緒になってお好み焼きをつくり、楽しく食べながら大いに盛り上がりました。また、12月のイヤーエンドパーティーでは、お正月の風物詩であるお餅を、解説を加えながらみんなで食べました。やはり「食」を介すると、カタコトでも話がはずむものです。

さらに、11月の世界ふれあい祭りでは、TIFAのブースで、受講生が立川市民とお茶を飲みながら談笑する機会をつくることができました。

このようなかたちで、受講生が教室で学んだ日本語を使いながら、地域生活をエンジョイできる機会を、今年は増やしていきたいと考えています。

世界に目を転じれば、ウクライナやガザで目を覆いたくなるような惨状が繰り返されています。一刻も早い停戦、平和の到来を願いながら、私たちのささやかな活動が、国境を越えて多文化共生のすそ野を広げていくのだという思いを新たに、この一年活動を続けていきたいと思っています。

イヤーエンド パーティー 2023

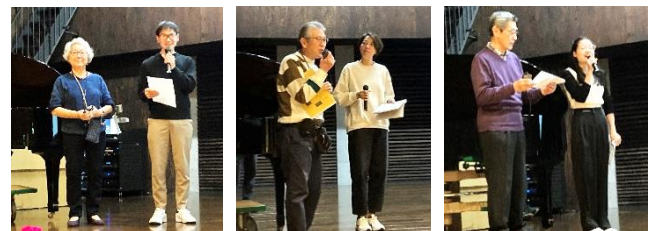


2023年12月16日（土）、柴崎学習館地下1階ホールにおいて、恒例のイヤーエンドパーティーが開催されました。今年は4年ぶりに食事付きパーティーが復活し、自由に歓談ができたことは大変喜ばしいことでした。

まず、木下会長から2023年の回顧と2024年の抱負が述べられ、会員の日頃の活動に感謝の意が示されました。その後は、プログラムに沿って発表や演奏が披露されました。

- 1、スライドショー 1年間の出来事
- 2、ボランティアと受講生のトークショー
- 3、餅つきの場面をビデオで紹介
餅などを使った料理の提供、会食
YEP10年の歩みの放映
- 4、和太鼓で歌を歌おう！

曲：東京ブギウギ、黒ネコのタンゴ、サザエさん



トークショーには5組が参加し、スクリーン上で紹介される写真を見ながら、日本の生活や仕事、日本語学習などの話題について交わされる「おしゃべり」をみんなに楽しんでもらいました。 <次ページへ>

その後、餅などを使った料理をいただき、久しぶりに幸せな会食の時間を持つことができました。

和太鼓演奏は、西砂教室のボランティアと立川女子高校和太鼓部の共演が実現し、会場を沸かせました。受講生による体験演奏も行われ、直接日本文化に触れられる貴重な機会になりました。

また、ステージと会場の合唱と和太鼓、ピアノの演奏で盛り上がり、賑やかに終了しました。ボランティア、受講生を含めた参加者総数は87名でした。



木曜教室 防災訓練



2023年10月12日(木)、柴崎学習館にて立川市主催の防災訓練が行われました。参加人数は受講生18名、ボランティア20名、合計38名でした。

参加者は非常階段を通して駐車場に避難し、消防署から冷静に避難することの重要性について指導を受けました。次に消火器の使い方を訓練し、消火活動の基本動作を学びました。その後、ホールでアルファ化米の作り方、AEDの使用方法を学びました。

最後に非常用の保存食が配布され終了しました。



2023年 世界ふれあい祭り



11月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり、国営昭和記念公園において「第15回世界ふれあい祭り」が開催されました。初日は、立冬直後のことで真冬のような天候となり一時は雨にも見舞われましたが、翌日は曇天ながら穏やかな天気に回復しました。

今年はリサイクル品の販売を4年ぶりに復活しました。食器、タオル、バッグなど持ち寄りの雑貨を出品し、ほぼ完売でした。



また、無料お茶会を実施し、日本茶や中国茶、ベトナム茶、タイ茶などのサービスが好評でした。親子連れでクッキーを食べながら、TIFAメンバーも加わって会話が弾み、和やかな雰囲気に包まれました。

期間を通じてTIFA活動の広報パネルも展示され、また記念誌や会報の配布を通じて多くの来場者と交流が図られました。



祭りの設営や片づけ、販売、来場者対応等には、延べ32名のボランティアが参加し、一致協力して無事に行事を終えました。



リレーコラム 交差点

木曜教室 山田 さちこ

コロナがもたらしたちょっと嬉しいプレゼント

あれは3年前の12月。数十年前にわたる外国人の為に飲食、演芸、トークを伴う大イベントは、コロナによって全て剥奪され、全ての授業も休講を余儀なくされていました。その中で「イヤーエンド・元気かい？」は私にも革命を起こしてくれました。年輩いた脳細胞を駆使しZoom参加、人生初の出来事でした。



年も明けた1月、思いもよらぬ朗報が私の元に舞い込んできました。「山田さんはZoomは出来るかしら？」と。程なくして教室部長、紹介者、インド出身の受講者、私の4人でZoomで初対面、自己紹介後から私の日本語支援が再開したのです。Zoomによるオンライン授業は、教室での対面授業とほとんど変わりませんでした。

コロナがやや落ち着きを取り戻し、彼女が1ヶ月間インドに帰国した際には、時差を考慮に入れ週一回早朝よりレッスンし、正に世界中いつでもどこでもの遠隔操作が実現しました。

昨年の春、Zoom終了後の教室での対面で、何と彼女は結婚4年目にして妊婦姿になっていました。伝統行事の七夕にも参加し、願い事も書き、無事出産。私の助産師としてのアドバイスも、日本に住む彼女は「嬉しかった」と喜んでくれました。子育てが落ち着く頃にはまた日本語授業を再開し、日本語能力試験を目指している彼女を精一杯応援したいのです。

土曜教室 岡田 恵子

楽しい日本語

2022年1月よりTIFAに参加しています。自身が外国語の勉強を始め、「日本語を学ぶ外国人は、どのように勉強して、会話ができるようになるのだろうか？」と興味を持ったからです。



はじめに、日本語の“教科書”を探してみました。すると、わたしの時代の英語学習と同じ、“会話をする楽しさ”にまったくもって欠ける内容で、がっかりしました。このつまらない教

科書でやる気が出るのか？話せるようになる外国人はいるのだろうか？

日本語を話せるようになった外国人のYouTubeで「日本語の教科書や学校だけでは、会話ができるようにはならなかった。バイト先の仲間やお客さんと話すようになって、どんどんしゃべれるようになった！」と流暢に話すのを見て、「そのような話相手になってあげたい」と、探したのがTIFAでした。

ボランティアを始めて2年弱。受け持った受講生は、入れ替え激しく計5名。皆、わたしの半分くらいの年の若い子たちです。自分が若い頃のように、仕事もプライベートも忙しく、残念ながら継続して1人を教え、卒業を迎えるには至りません。

一度、担当した受講生を卒業まで見送りたい。それが今のわたしの目標です。その時少しでも「日本語で話すのが楽しい！」と感じてくれていたら、とても嬉しいだろうと思います。

土曜教室 スピーチ会



2023年11月11日(土)、柴崎学習館でスピーチ会が開催されました。受講生20人が参加し、2つの教室に分かれて発表しました。

初級者は自己紹介のほか、出身国の様子、食べ物、家族の話、日本での仕事のことなどを話しました。

中上級の学習者からは余裕も感じられ、笑顔いっぱいでのびのびと発表していて、日頃の勉強の成果が十分に発揮できていました。

質問タイムでは、詳しい話を聞きたいと、次から次へと手が挙がり、大盛り上がりでした。

最後に参加賞が配られ、みんなニコニコ顔でした。

<発表テーマ>

- ・自己紹介 ・海外経験による成長 ・留学生の悩み
- ・日本の好きな食べ物 ・運動について ・私の趣味
- ・私の故郷紹介 ・故郷の成人式 ・文化祭について
- ・シカゴの四つの美味しい食べ物 ・日本に来た理由
- ・外国人にとって日本語は大切ですか
- ・日本での生活のスタート



西砂教室 秋の昭和記念公園

11月19日（日）に西砂教室の交流レクリエーション活動として、国営昭和記念公園へ行きました。参加者は、受講生他家族関係含め11名、ボランティア講師関係10名、合計21名でそのうち子供さんが3名でした。



当日は晴天に恵まれた日曜日とあって、たくさんの家族連れやカップルでにぎわっており、私たちもそれに交じって広場の大ケヤキのそばで、大縄跳びやミニサッカーなどをして楽しみました。

イチョウ、カエデ、メタセコイアなど色づき始めた紅葉（黄葉）を楽しみながらの13,000歩に及ぶ園内散策は、園内に大変詳しい講師の先導で、山の中のような道も歩きました。歩きながら、ふだん夜の教室では顔を合わす程度の人たちともお互いに話すことができましたし、途中でコスプレ、前撮りなども実際にみることができていい経験になりました。

午後3時、まだ日のあるうちに無事終了して解散となりました。



土曜教室 ボランティア研修会

2023年10月21日（土）、柴崎学習館地下1階、第1教室において、今年度第2回目の土曜教室ボランティア研修会が開催されました。



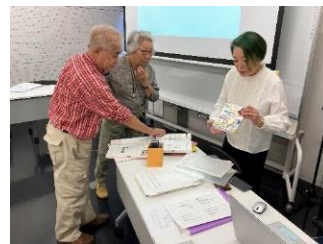
講師に「YSCグローバル・スクール 統括コーディネーター」のピッチフォード理絵先生をお迎えし「日本語を日本語で教える～教師に求められるもの～」をテーマに、お話をいただきました。

ゼロベースの受講生への教授法について、私達の疑問に明確な解決策が示され、多くの指針を得ることができました。なお、出席者数は16名でした。

<研修の概要>

1、講義内容

- ①直接法と間接法のメリット、デメリット
- ②学習者の動機とゴールを知る
- ③伝わる話し方（短文で説明、直接的具体的な表現での説明、ビジュアル教材活用、カタカナ語は不使用、接続詞使用など）
- ④教え方（教材選定、授業の準備及び進め方）
- ⑤指導者と学習者の関係性と注意点



2、実践編

- ①授業計画書の作成
 - ②指導者と学習者の「はじめまして」の自己紹介
- ### 3、質疑応答

木曜教室 ボランティア研修会

2023年9月21日（木）、柴崎学習館第一教室において木曜教室ボランティア研修会が開催され、15名のボランティアが受講しました。



講師は「帝京大学外国語学部 国際日本語学科」の岡葉子先生で、講演テーマは「学習者に合った教材選びのヒント～日本語学習の教材について～」でした。

研修内容は、まず4つのグループに分かれてグループワークを行い、3つの代表的な初級者向け教材を比較検討し、グループごとに発表しました。

次に、学習者の背景を理解し、学習目的を探ったうえで教材を選ぶことなど教材選びのポイントを解説いただきました。

その後、学習者の日本語レベルや学習目的に適ったおすすめ教材を、書籍およびウェブサイトから25点ご紹介いただきました。教材ごとの特色を簡潔かつ丁寧に説明くださり、中には初見の教材もあって、とても参考になりました。

質疑応答を含めて1時間半、直ぐに役立つ実践的かつ効果的な研修でした。



立川国際友好協会



西砂教室

